

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100170		
法人名	有限会社 与苑		
事業所名	グループホーム 与苑	ユニット名	1号館
所在地	宮崎市大字広原312-1		
自己評価作成日	平成23年7月20日	評価結果市町村受理日	平成23年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100170&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・苑内にあるビニールハウスで利用者とともに苗植えをし、菜園を行っている。収穫する際も利用者で行い、収穫した野菜で漬物などを作っている。また、利用者や家族へ安心していただけるよう、家族との情報交換を行い、家族や利用者との関わりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いを把握することを大事にしており、日々のケアで実践できるよう利用者と同じ目線で耳を傾け、感じ、寄り添うケアに取り組んでいる。ホームの敷地内のビニールハウスで一緒に野菜を育てたり、庭のあずまやでバーベキューを催したり、また、音楽療法やアニマルセラピーを取り入れて、利用者が生き生きとした笑顔で生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今回、地域密着型サービスの意義を踏まえ理念として見直しを行った。今後、理念を共有し、実践につなげていく。		地域密着型サービスの意義を確認し、職員全員で話し合い、新たな理念を作り上げている。日々の生活の中で、理念に基づいた支援ができるよう積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会へ加入し、現在では回覧板が回ってきたり、総会に参加したり、地域とのつながりに努めている。		自治会に加入し、地域の一員として回覧板を回し、会合や活動に参加している。地域の児童館の行事に参加したり、ホームの行事を地域に案内し、参加を呼びかけて、積極的に地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同地区にあるハウスにてイチゴ狩りを行った。直接接していただき交流を図ることで、認知症の理解を促した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。東北における震災をきっかけに、会議の中では避難方法を地域の人、家族と共に再確認することが出来た。		委員から活発な意見や質問、要望が出され、またそれが、地域の状況の情報収集の機会にもなっている。出された意見や要望については、委員の協力を得ながら早急に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃、苑利用者についての相談やアドバイスをもらったり、関わりを持っている。また、研修会にも積極的に参加している。		運営状況の報告、利用者にかかわる問題等を気軽に相談できる関係を築いている。市主催の研修等に積極的に参加し、より協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員は身体拘束についての弊害を理解し、寄り添うケアに努め、事故防止にも取り組んでいる。		利用者が抑圧感のない暮らしができるよう、寄り添うケアを実践している。毎月開催される勉強会で、「身体拘束のないケアの実践」について話し合いを持ち、認識を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より使用者との関わりを持ち、尊厳を大切にケアに取り組み、家族スタッフのストレスの有無に目を向けながら、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時のオリエンテーションの中で説明をし、必要性について考え理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、運営規定、重要事項説明書に基づき説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に出来るだけ声掛けを行い、意見、要望がないか確認をしている。また、家族会を設け、話し合いの中から、反映できるよう努めている。		家族の来訪時に声かけして、要望や意見を言ってもらえるよう問いかけている。家族会があり、家族同士の話し合いの場から意見や要望が出せる体制ができている。出された意見等については、反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、仕事に関する意識調査を実施し、その中で苑に対しての意見を出してもらい、改善できることから取り組んでいる。		年1回、全職員を対象にした意識調査を実施している。毎月のミーティング時に、職員の意見や提案を聞く機会を持ち、それを検討し反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を立て、取り組んでもらっており、半年ごとに自己、他者で評価することで個々の存在感を高め、納得性のある仕事ができ、充実感や満足感を分かち合うことができるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフを研修に参加させるようにしており、学んだことは苑内学習会で伝達、実践できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くの交流会に参加している。意欲を持って参加するスタッフも増え、情報交換は重要なものになっている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、または家族と話し合える場を設け、不安、心配事を聞き、共に解決方法を話し合い、安心して利用できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望を聞くように取り組み、特変があった場合は連絡をし、現状を報告しながら、初期を共に乗り越える体勢を作っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、本人と家族がどのようなサービスを求めているかを見極め、最も適したサービスを受けられるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の嗜好を把握し、同じ目線に立ち、気分や体調の変化に気を配るよう努め、臨機応変な対応を心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際、利用者の近況報告を行う。また、家族が出来ること(下着の依頼など)はなるべく協力してもらい、共に支えて行ける環境作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常に行事のあるときは参加を促して、同じ時間が過ごせるよう努めている。また、環境状況を把握し、尊重できるよう会話にも努めている。	利用者のこれまでの人間関係や社会との関係の把握について、利用者、家族、関係者からの情報収集に努めている。なじみの人の訪問の継続や昔なじみの食べ物を食べる機会を設ける等の支援が行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、行事の参加は、全員が出来るよう取り組んでいる。利用者同士の会話に耳を傾け、共通点、要望があった際は、添えるようなケアを行い、より深まるように努める。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他施設へ移った際など、面会の機会を作り、交流に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言動、行動、表情の観察を行い、意向の把握に努めている。また、家族、関係者の情報を取り入れている。	利用者の目線になることを大事にしており、日々のかかわりの中で思いの把握に努めている。センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)に取り組んでおり、「本人はどう?」の視点に立って、職員一人ひとりが利用者の思いや意向に関心を払っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院時のアセスメントで生活歴、職歴、生活環境、趣味などの情報を集めている。また、家族より話を伺い、情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録に必ず目を通すようにしている。記録だけではなく、関わりあった職員に話を聞き、その場その場の状況把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたり、本人、家族の希望に添えるよう努めている。担当者と共にモニタリングを1~3ヶ月に1回行っている。	モニタリングを毎月実施し、それに基づき3か月ごとに介護計画を見直している。本人の意向を日々のケアで確認し、家族の意見を聴取して職員で話し合いを持ち、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に日々の気づきを記録し、職員間で共有しながら実践、介護計画に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを行いながら、中間評価の機会を使用し、その時の状況にあわせたプランの作成に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の心身の向上を目的として、近くの公園などに出向き、交流を持てるよう支援している。また、緑とのふれあいが出来るよう、ビニールハウスで野菜作りに参加してもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、すずき内科クリニックより往診をして頂いている。時に家族も来られ、気楽に相談したりとよりよい関係作りも行っている。	利用者と家族の希望するかかりつけ医となっている。定期的に訪問診療があり、また、急変時には協力医の往診体制があり、利用者が適切な医療を受けられる体制ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化が合った場合には、看護職に報告、相談し、適切な対応が出来るよう連携を取っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、状況確認を取るよう努めている。また、病院のケアワーカーと連絡を取りあうなど、情報交換にも努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に、急変時の対応についてや終末期をどのように迎えたいか、希望があるか、医療連携加算の関係性もあり同意書を頂いている。	利用開始時に、看取りに関する指針を説明し同意書をもらっている。協力医との連携で看取りの実績もあるが、具体的な対応の方針は定められていない。	重度化や終末期の対応について、職員、医療関係者と話し合いを持ち、対応方針を定めてほしい。その方針を本人や家族に説明し、家族、職員、関係者で共有する取組に期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル作成、緊急連絡網の作成をして備えており、定期的に訓練を行っている。応急手当、初期対応などの研修へも参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回防災、通報訓練を実施している。地域消防団への協力も打診している。	消防署の協力を得て、年2回の防災訓練を実施している。地域の消防団の協力が得られるよう働きかけている。	年2回の防災訓練のみでなく、年間を通じた訓練や避難場所へ行き、経路を確認する等、実際的な訓練を繰り返してほしい。また、地域との協力体制を確立する取組にも期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に念頭に置き、言葉使いに気をつけている。また、守秘義務について理解をし、対応している。		利用者の人格を尊重して、さりげないケアや自己決定しやすい言葉かけをしている。特に排せつについては、誇りを傷つけないよう、目立たない声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個別対応にも心がけ、利用者の思いに添えるよう支援している。また、選択肢にある会話方法にも心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応に心掛けながら、その日の雰囲気把握した上で、その日のレクリエーションを選択し、なるべく全員が楽しめるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一連の身だしなみは、なるべく出来るよう促し努めている。また、外出の際には、化粧まではいかないが、口紅をしたり、本人の好む服を着たり工夫をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には、今日のメニューはなんですか、など想像を促してみたり、盛り付けをしてもらったり、片付けをしてもらったり、家庭的な雰囲気を作るよう努めている。		盛りつけ、皿洗い等を利用者も手伝いながら食事を準備し、職員も一緒に食卓を囲んで楽しく食事している。時には利用者主導でちらし寿司を作ったり、ホームの畑で収穫した野菜で漬け物を漬けたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事は健康管理表に記載し、把握している。また、場合によっては水分チェック表などを用いて管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導、実施を行っている。定期的に歯科往診が来て、清潔、異常の早期発見に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄状況及びパターンの把握をしている。夜間、紙パンツ使用者でも日中はトイレ誘導を促す為、パンツを使用している。全員がトイレで排泄が出来るよう努めている。	排泄チェック表を参考に、一人ひとりの状況を把握して、日中は全員がトイレで排せつできるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努めながら、共に必要時は下剤を服用している。個々の排泄サイクルに合わせ、よい環境で排泄が出来るよう努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが、本人の希望があればいつでも入浴できるよう支援している。	週3回の入浴日になっているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。希望については、具体的な取組を人員配置等、施設長を含め相談、検討することにして		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に合わせ、状態を見ながら休息を促している。天気の良い日は布団を干したりシーツ交換を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理ファイルを作成し、一人ひとりの内服が把握できるようにしている。また、血圧の高い時、変更があった際は業務日誌へ記入し、申し送っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	IADLを中心に取り組み、生活歴を生かした役割を持ってもらっている。また、嗜好品、趣味を取り入れたレクリエーションを実施している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度、家族と共に協力を得ながら外出を実施している。日用品の買い物は利用者と共に出かけている。	散歩は日課になっており、月1回は家族の協力を得て、レクリエーションで出かけている。日用品の買い物は、利用者と職員と一緒にドライブを兼ねて出かけている。敷地内に農園があり、野菜の世話や草取り、収穫等、戸外で過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かり金として苑に保管し、本人の希望する時、また、必要に応じて使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をしている。利用者の中には、本人持ちの携帯電話を預かっている方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に空気清浄機を作動し、温度、湿度に気をつけている。また、毎月の季節感を味わえるようカレンダーの作成、居室入り口の飾りに工夫している。		フロアは風通しが良く、明るく広々としている。ソファやテレビが置かれ、利用者それぞれがお気に入りの場所でゆったりと過ごしている。壁には、外出や行事の際の利用者の笑顔あふれる写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースで気のあった利用者同士で日向ぼっこし、会話を楽しんだり自室への出入りも自由にしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、家具、仏壇を持ってきて居心地良く過ごせるよう工夫している。また、好みの写真を貼ったり、よい空間作りにも工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、風呂場は手すりが付いており、すべてバリアフリーの環境になっている。			